

# 話題の取り上げ方のひみつを探ろう

—調べ学習を利用して、説明的な文章の内容と構造に迫る—

岩本和貴

## 1 はじめに

本校国語科では、課題解決的な学習を中心とした実践に取り組んでいる。今年度は、学習ステップの「解く」について、子どもたちがどのように見通しをもって課題解決に取り組むかを研究テーマとして、実践を重ねてきた。

子どもたちは調べ学習が好きである。

疑問や興味をもったり、一度取りかかった課題に対して、時間を忘れて調べ学習に取り組む。コンピューターの前に座り、図書室に行き、または校外・放課後の取りくみでも、最も主体性を発揮した学習ができています。これまでの説明的な文章の実践を通して、効率的に調べ学習ができるようになってきた。子どもたちは、ますます調べるのが楽しくて仕方ない。

このように、知的欲求を主体的な活動で充足することは、言うまでもなく学習に対する大きな動機づけになる。国語科学習は、往々にして子どもたちの学習意欲を喚起したり、継続することに大きなエネルギーを費やす。時間数が多く、マンネリになることがあるからかもしれない。読解中心・理解中心の学習が魅力に欠け、退屈なせいもあるだろう。調べ学習は取りくみ方次第では、這い回った上、成果の薄い学習になりかねない。しかし、子どもたちのこだわりを生かすことで、意欲的な学習にすることも可能である。特に説明的な文章においては、文章構成、表現、内容吟味などの学習にも、密接に関わりをもつことのできる学習である。

本年度は、子どもたちの知的欲求を原動力にした学習への取りくみについて述べる。

## 2 「体を守る仕組み」(光村図書4年下)の実践を通して

### (1) 教材についての基本的な考え方と指導のねらい

本教材は身体の免疫機能について説明してある。膨大で専門的な情報を精選・整理し、問いかけや語りかけなどの表現を効果的に用いて書かれている。小学校4年生にわかりやすくかみくだいて書こうとした、筆者の工夫が感じられる。文章構成では、「問題提起」→「答え」→「説明」というパターンを繰り返すことで、テンポよく読者の思考の流れを作っている。まとめの部分は筆者の思いが強く出過ぎて、ややそれまでの述べ方と馴染まないところもある。子どもたちも違和感をおぼえるだろうと考えた。本教材を評価するきっかけになると予想される部分である。

子どもたちはこれまでの学習を通じて、説明的な文章を読む際、内容面ばかりでなく構成面・表現面などの観点から、工夫や課題を見つけて読むことができるようになってきている。自分なりの考えをもって読むことができる子も増えている。しかし、観点にとらわれすぎて、細かいところにこだわりすぎる傾向もある。従って、「筆者はこう考えたんじゃないかな」という思いをもって、本教材をじっくり吟味することで、文章の良さを味わい、問題点が明らかにすることができると考えた。そのきっかけづくりとして、表題読み直後の調べ学習を設定した。

説明的な文章の学習に関連した調べ学習をすることは、子どもたちの楽しみになっている。調べ方やまとめかたも多様に、また要領よくなっている。子どもの知的欲求は満たされ、積極的な読みの構えをもつことができる。

表題読みから内容を予想して、本教材文に触れる前に、自分たちの力で「体を守る仕組み」について十分に調べる学習を行うことで、筆者がどの程度の知識(作文指導上の観点で言えば、「書く

材料) をもっていたのかを予想できるようにした。また、「書く材料」をどのように吟味・精選・整理して文章を組み立て、説明しようとしたのか感じ取り、検証していくことで、文章を子どもたちなりに評価できるはずである。

指導にあたっては、次の3点をその目標として考えた。

- 1 各段落で述べられている内容の価値や関係を吟味して読むことができるようになる。
- 2 文章の組み立ての工夫を理解することができるようになる。
- 3 体の仕組みについて興味をもって調べることができるようになる。

## (2) 学習の過程

### ① 表題読み

課題／〇〇を守る仕組み について考えよう。

表題読みでは、「〇〇を守る仕組み」と板書し、何について書かれている文章を教材とするのか予想することから始めた。総合的な学習に対する取りくみの影響か、「自然」「太田川」という答えが多かったが、「体を守る仕組み」という意見も十分子どもの答えうる範疇にあった。

「体を守る仕組み」について、具体的に知っていることを尋ねた結果、子どもたちからは次のような反応があった（内容は簡潔にまとめてある）。

- ・白血球がばい菌をやっつける。
- ・手洗い・うがいをすることで、病気は防げる。
- ・鼻毛にゴミが引っかかって、鼻くそ・鼻水になって体の外に出される。
- ・体にはいった毒は、うんちやおしっこになって、体の外に捨てられる。
- ・まゆ毛やまつ毛は、眼に汗がしみたりゴミがはいったりするのを防ぐ。
- ・お風呂で体をこすると、アカがでる。アカの中にばい菌がある。
- ・食べるときつばが出て、虫歯を防ぐ。

意外に科学的な知識をもった子が多くいた。近頃は科学的な内容の絵本等が多く出版されている。体の仕組みについてわかりやすく述べてあるものも少なくない。家庭などでいくらの知識を身につけているのだろう。科学的な問題に対しての興味も強くもっているようで、教室が一度ににぎやかになった。

但し、子どもたちがもっている知識は体系化されたものではない。断片的なものが多く、正確ではないものもある。これらの点については一応指摘したが、詳細には触れず、学習を進める間に自分で気づくことができればよい、とだけ助言した。子どもたちのもった興味の大きさを大切にしたいと考えたのである。

子どもたちが調べ学習に対して意欲的に取りくむであろうという実感が予想以上に得られた。

### ② 調べ学習

課題／「体を守る仕組み」にはどんなものがあるのか、調べてみよう。

調べ学習は、本校コンピュータールームと図書室、保健室、理科室を中心に行った。グループの中で協力・分担することで、学習の効率化を図った。しかし、調べた内容のまとめと発表は、子どもたち個々のこだわりを配慮し、個別に取りくんだ。調べ学習の発表は多くの場合、3年生の時から掲示板の児童個人ファイル（B4版）を使って行っている。休憩時間なども使って、お互いの学習成果を見合う習慣がついている。

《資料》 子どもの調べ学習内容（例）

<p>目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように</p>	<p>目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように</p>	<p>目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように</p>
<p>目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように</p>	<p>目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように</p>	<p>目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように 目の中に入ると目に入らないように</p>

調べ学習のために割いた時間は決して多くはなかったが(3単位時間)、子どもたちは精力的に活動し、放課後や家庭学習にも自主的に取りくんだ。

③ 学習課題づくり

課題 / 「体を守る仕組み」を読んで、学習課題を作ろう。

学習課題づくりについては、昨年度学校紀要での取りくみを参照されたい。学習課題づくりの過程には大きな変化はない。本学級は、昨年度からの取りくみによって学習課題の質的向上が著しく、一次読みでも教材をかなり読み深め、ある程度評価することができる結果であると推察される。したがって最初の読みでも、昨年度のような細かい設問はせず、子どもたちの初発の感想、感じ取りを大切にするために、自由記述とした。子どもたちの作った課題を下に挙げておく。

<p>① 血液が流れているところを調べたい。 ② 血液が流れているところを調べたい。 ③ 血液が流れているところを調べたい。 ④ 血液が流れているところを調べたい。 ⑤ 血液が流れているところを調べたい。</p>	<p>① 血液が流れているところを調べたい。 ② 血液が流れているところを調べたい。 ③ 血液が流れているところを調べたい。 ④ 血液が流れているところを調べたい。 ⑤ 血液が流れているところを調べたい。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今回の学習課題づくりでも、個人での取りくみの段階から、内容そのものに対する課題は少なく、

内容の取り上げ方、書き方の詳しさ、文章の組み立て方、表現についてに関わる、質的価値の高い課題が中心であった。これは、事前の調べ学習の結果、子どもたちの内容的な事柄に対する知的欲求が満たされていることも影響していると考えられる。

グループ・全体討議の場で学習課題を精選し、解決の見通しをもった。学習の柱として、本教材の大きな学習課題、

大課題／筆者はどうして白血球などにしぼって、この文章を書いたのだろうか。もっと短くまとめて他のことを書けなかったのかな。

を設定した。そのほかの学習課題も、全てこの大課題を考える上で関わってくると考えられるからである。この大課題を中心に据えて、文章構成・文章表現の面から学習課題を整理し、展開に沿って解決する過程を計画した。

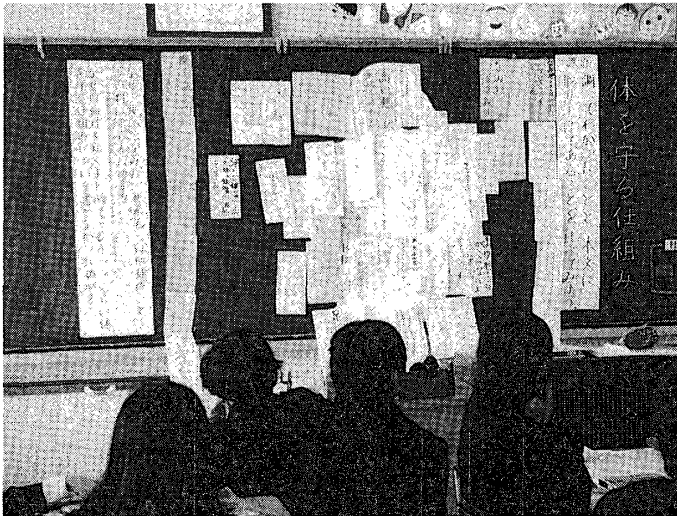
④ 大課題に関わる授業（研究授業を中心に）

学習課題／調べて分かったことと、本文に取り上げてあることを比べてみよう。

本時は、子どもたちが調べ学習をした内容と、本文の組み立て・内容理解をもとに、筆者がどのように内容を整理し、説明しようとしたかについて考える授業である。調べた内容を筆者が本文中に取り上げた内容と比べることで、筆者の説明の仕方の工夫について考え、思いを感じ取ることを大きなねらいとした。学習過程は次のように計画していた。

表中◎印は、特に今年度本校研究テーマの「自分で決める場」に関わりの深い支援活動である。

学 習 活 動	教 師 の 働 き か け
1 学習課題を確認する。	1 本時の学習課題を、全体の見通しの中で確認する。
2 グループごとに調べたことをまとめて、発表する。	2 調べたことができるだけ短い言葉で発表できるようにする。 ・ワークシート、発表用板書カード配付。 ・机間指導を行う。何について調べたのかを、短く提示できるように助言する。 ・本文に取り上げてある内容は、あらかじめ色カードに書いて、用意しておく。 ◎カードを貼る場所について意識できるようにする。
3 調べたことと本文に取り上げてあることを比べ、筆者の意図について考えて、話し合う。	3 筆者の意図について、自分なりの考えをもつことができるようにする。 ◎子どもが調べた内容で、本文で取り上げてある内容と重なっているものには、色を付ける。 ・班で調べたことについて話し合いをもつなどして、発表しやすくする。 ・自分の気づきをワークシートに書きこんで、整理できるようにする。
4 学習をまとめ、筆者と自分の考えを比べて感想をもつ。	4 ◎ワークシートに書きこむことで、自分なりの考えが自由に書けるようにする。



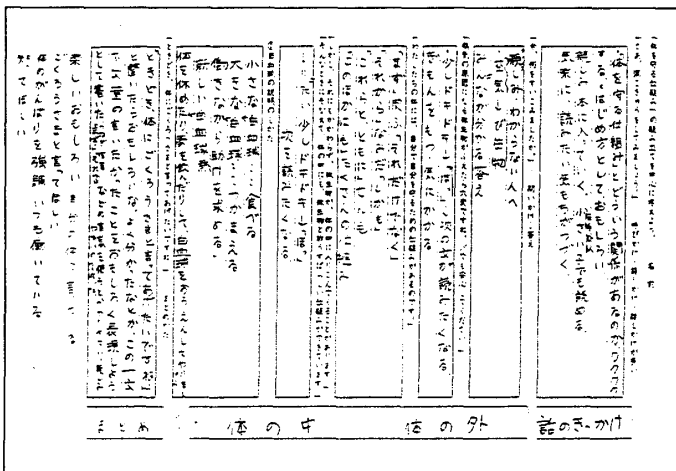
は、この板書の状態を見ても明かではある。と同時に、次時では予定を変更して、この内容をどう整理したらよいかという新たな課題をもつことになった。

学習課題／たくさん黑板にはってある、調べて分かったことと本文に取り上げてあることを、どのように整理したらよいか考えよう。

板書を見ながら子どもたちが提案したことは、

- ・同じ内容・似た内容のものは1つにまとめよう。
- ・本文の展開の流れは、「体の外→内」とわかりやすくなっている。筆者が考えたその流れの通りに、短冊を貼り替えてみたらどうか。

の2点である。前者については、その内容について「どれだけ多くの人が調べたか」ということと、「体を守る仕組み」の中での重要性は関わりがあるのではないかということで、縦に並べてまとめることになった。



う気づきが生まれた。

その結果、黑板に残った短冊は筆者が本文で述べている内容とほぼ同じであることが明らかになった。白血球については、子どもたちは細かく、「T細胞」「B細胞」「マクロファージ」「リンパ球」などさまざまな分類がなされ、それぞれに別の働き・役割があることを調べている。当然専門家である筆者もその程度の知識はもっていることを話し合った。もうひとつ、新しい課題が設定された。

実際には、白と緑の2種類の短冊を用意し、筆者が本文で取り上げている内容と、筆者が取り上げていない内容の区別をはっきりとできるようにした。

ところが、指導上の見通しの甘さから、左の写真のように板書が短冊だらけになってしまい、ここから子どもたちが気づきをもつことが難しくなってしまった。調べ学習の内容を8つのグループが短冊にして提示したらどれくらいの量になるのか、私が見込み違いをしていたのである。子どもたちが、意欲的に調べ学習に取りくんだこと

子どもたちが考えを整理しやすくするために、左の様なワークシートを用意した。提案にしたがって短冊を並べ替えた際、筆者の述べていることと自分たちが調べた内容を比べやすくするために、さらに短冊を整理する観点はないか、作文の組み立てを意識できるように発問した。子どもたちから、この文章に書いてあるのは微生物から「体を守る仕組み」なので、微生物との関わりが薄い短冊は外して考えてよい、とい

